

### 【短報】福井県における希少水生甲虫2種の記録

福井県において希少水生甲虫2種を採集しているので、報告する。

報告に先立ち、福井県内における水生甲虫の記録をご教示いただき、発表を勧めていただいた福井大学教育地域科学部の保科英人准教授、仲介の労を賜った石川県ふれあい昆虫館の福富宏和氏にお礼申し上げる。

#### 1. コマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus acuminatus* Motschulsky, 1859

1♂, 福井県越前市小野町, 24. VI. 2013, 筆者採集 (図1).

#### 2. ミユキシジミガムシ *Laccobius inopinus* Gentili, 1980

1♂, 福井県越前市小野町, 24. VI. 2013, 筆者採集 (図2).

同定は、森・北山 (2002) および上手ほか (2013) に従い、雄の交尾器を確認した。標本は全て保科英人准教授が保管している。

両種が確認されたのは田園地帯の周辺に形成された湿地であった。コマルケシゲンゴロウは1個体しか見られなかったが、ミユキシジミガムシは多数の個体が確認され、そのうちの1個体を捕獲した。

福井県のゲンゴロウ類は、森・北山 (2002) により38種が記録されている。このうち、ウスイロシマゲンゴロウ *Prodaticus rhanoides* (Sharp, 1882) は下野谷 (1993) によりヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis* (Macleay, 1825) の誤同定であったことが報告されており、福井県からの分布記録が抹消されている。福井県 (2015) ではシャープツブゲンゴロウ *Laccophilus sharpi* Regimbart, 1889 が掲載されており、累計38種のゲンゴロウ類が確認されていることになるが、コマルケシゲンゴロウは記録さ



図1-2. 福井県産コマルケシゲンゴロウ (1) とミユキシジミガムシ (2) .

れていない。また、福井県 (2015) によると、ミユキシジミガムシも未記録であることから、これら2種は福井県初記録になるものと思われる。また、両種は、「環境省版レッドデータブック」の準絶滅危惧 (NT) に選定されており (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015), 福井県においても希少種の可能性がある。

#### 引用文献

福井県, 2015. 福井県みどりのデータバンク. ([http://www.erc.pref.fukui.jp/gbank/G\\_index.html](http://www.erc.pref.fukui.jp/gbank/G_index.html)) (2015年11月17日アクセス)

上手雄貴・森 正人・司村宜祥・松井英司, 2013. 日本産シジミガムシについて. さやばねニューシリーズ, (9): 12-15.

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015. レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—5昆虫類. 509 pp. 株式会社ぎょうせい.

森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版.

下野谷豊一, 1993. 福井県産ゲンゴロウ類の分布記録. 福井市自然史博物館研究報告, (40): 83-89.

(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊3番地  
石川県ふれあい昆虫館)

### 【短報】福井県におけるマルケシゲンゴロウの記録

マルケシゲンゴロウ *Hydrovatus subtilis* Sharp, 1882 は環境省レッドリストで準絶滅危惧に選定されており、近年、全国的に減少傾向にある (環境省自然環境局, 2015). 近接する石川県加賀地方における記録があるが (石川県野生動植物保護対策調査会, 2009), 福井県ではこれまで確認されていなかった。今回、石川県に近接する福井県北部において確認されたため、県初記録として報告する (図1).

1ex., 福井県あわら市後谷ため池, 11. X. 2015, 西原採集・保管.



図1-2. 福井県産マルケシゲンゴロウ (1) と生息が確認されたため池 (2). ヒシが水面を覆い、岸边にはマコモが生育する.